



くさか景子の

ちよっ

と よろしいですか!

と



神奈川県の放射能測定!

原発事故の収束の道のりは厳しく、被災地では未だ避難を強いられている状況には胸が痛みます。神奈川県内では、県が設置する3箇所14基のモニタリングポストで放射線量測定を行っており、随時、その値をホームページで公開しています。そのひとつ、茅ヶ崎の県衛生研究所を先日訪れお話を伺ってきました。高い精度で24時間常時測定している県衛生研究所のモニタリングポストは、4.9メートルの高さにあり、3月15日に1時間あたり0.182マイクロシーベルトまで急上昇しましたが、その後は、0.051マイクロシーベルトまで下がり、今は平均0.05マイクロシーベルトと落ち着いています。

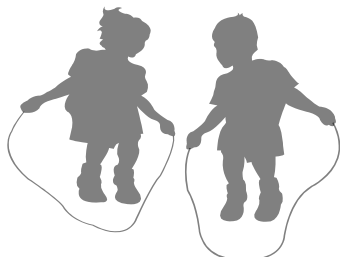


通常は、平均0.04マイクロシーベルトであり、これまでに計測された放射線量は、3月15日の最大値を含めて、健康に影響のあるレベルではなく、日常生活上、特別の対応をとる必要はないとの県の見解が示され、一定の理解をして帰りました。

しかし、このモニタリングポストは4.9メートルと高い場所に設置しており、「空中観測値」では説得力がないようにも感じました。一般市民にとって、地上の数値はどうなのかが知りたいところです。茅ヶ崎市にある県下水処理場の汚泥や焼却灰からセシウムが検出され、セメント業者の引き取りができなく、野積みされている状況を見ると、やはり、地上には放射性物質が降り注いでおり、雨が降ると危険ではないかなど、市民にとって、不安感が払拭できません。

子どもたちを放射能被害から守るために!

市町村レベルでは、独自に、学校の校庭や公園など放射能調査を行っている自治体が6月20日時点で21市町村あり、これから夏に向けて学校のプールを測定している自治体も9市町村ありました。しかし簡易測定器の値は非常に不安定なもので、値にばらつきもあり、特に、子どもを持つ親にとって、学校や公園で泥遊びをしていいかなどの問い合わせもあるなど、不安の要素が増えています。さらには、保育園や学校給食の食材の放射能被害が心配だという声も多く聞かれます。



東京都では、都内全域を4kmメッシュで区分して、原則1地点空間放射線量を測定しています。神奈川県でも7月には、33市町村1か所ずつ、簡易測定器で測定を行うことにはなりましたが、広域自治体として、さらに、きめ細かく、ホットスポット(特に値が高いところ)はないのか測定し、県民への情報公開を行い、安全性を確保していく必要があります。



宮城県南三陸町へ災害ボランティアに行きました！

茅ヶ崎市社会福祉協議会主催のボランティア派遣で、17日の夜10時中央公園から宮城県南三陸町にバスで出発しました。翌朝6時半、海の見えない山の方まで津波被害のがれきが続く南三陸町のボランティアセンターに到着しました。受付を待つ間に、南三陸町社協の猪又総務課長に話を伺うと、町の人口の約1割が川をさかのぼった16メートルもの津波の犠牲になったということです。まだ避難所にも避難している人が残り、仮設住宅の建設を待っており、7000戸は必要だが、まだ1900戸しか追いついていない状況でした。カキ、ウニ、ホタテ養殖の再生に力を入れているようでしたが、義援金の配分もないし、復興には30年はかかると悲観されていました。

1日目、男性陣は、カキ養殖用いかにつける土嚢づくり、私たち女性陣は、避難所の掃除、2日目は、思い出探し隊、写真・手帳・アルバムなど大切なものをきれいにする仕事をしました。私は、たまたま町の議員さんの手帳を発見！筆や水できれいにしながら、生きていてほしいと思いき涙がでました…。2日間のボランティアでしたが、少しでも被災地の人たちに寄り添い、復興を願う旅でした。



宮城県 被災地現場



避難所の皆様と

7/23(土)

11:30～13:30

くさか景子のほっとコラム

ミニ講演会

震災報告会

福島県現地報告 福島県議会議員 西丸武進氏



被災地現場の報告を受け、災害復興を願いながら、私たちにできる支援を考えてみたいと思います。

会場 茅ヶ崎ラスカ 6階 サロン
会費 3,000円(事前申し込み制)昼食・飲み物付き
問い合わせ先
TEL&Fax 0467-58-0290
e-mail future@grace.ocn.ne.jp